

登呂農耕文化研究所活動実績報告書

(令和4年10月1日～令和5年9月30日)

人文社会科学部・登呂農耕文化研究所所長 篠原和夫

1. 研究の概要

本研究では、登呂遺跡史跡公園内で再現された実験水田で、復元した当時の道具や技術を用いて水稲耕作の再現実験を行い、その過程と結果を考古学や歴史学のほか、自然科学の手法を用いて正しく評価することを継続的に行っている。特に昨年度から耕起水田と不耕起水田の比較実験に力を入れており、その総括から古代水田の実態に迫る研究を進めた。また、国内外との連携をはかりながら、登呂遺跡の現代社会において整備された史跡としての価値を高め、その活用に資する研究を継続している。

2. 期間中の活動実績

①**栽培実験と成果** 期間以前から行っている当時の道具・技術を用いた水稲栽培実験を継続した。令和4年11月に収穫を行い、収穫物の計量等を行った。令和5年度は、4月の田拵えの実験から開始し、育苗、6月の田植え、7月以降の管理、育成を行った。11月収穫予定。令和4年度は、考古学研究室学生が考古学実習Ⅱの授業で復元木製農具を用いた耕起実験を行って分析をまとめ、11月の大学祭で第49回考古展「弥生農耕の実態にせまるー登呂遺跡復元水田での耕起実験の成果からー」(11月4日・5日)としてその成果を展示発表した。静岡新聞R5元旦からの登呂遺跡80周年の連載にこれらの取り組みが掲載された。

②**実験田の自然科学分析** 実験田ではR4年度4月、8月には稲垣栄洋氏(雑草学)による植物調査を実施し、3月に学会発表した。また1～3月には委託して水田面に残留する植物種実の調査(2年目)を実施した。12月、2月には静岡市の協力を得て遺跡公園周辺で登呂遺跡の実際の水田作土層の調査を実施することができ、関連して11月に地形形成に関する学会発表、3月に松田順一郎氏(土壌学)とともに比較検討会を行った。第3回水田稲作技術比較研究プロジェクト公開研究会・シンポジウムに参加し、登呂遺跡の栽培実験状況の報告や全国的な比較の視点・課題を共有した。また、登呂博物館の冬季企画展「コメ作りの考古学と民俗学」2022年12月～2023年01月に展示協力を行った。

③**韓国松菊里遺跡との交流事業** R5.3月の訪問を経て韓国を代表する青銅器時代農耕文化の史跡である松菊里遺跡と登呂遺跡の間の交流事業を進めることとし、学長裁量経費を得て計画を進めている。韓国伝統文化大学・松菊里遺跡、登呂農耕文化研究所・登呂遺跡相互の協定等の締結を目指して計画を進めている。R5.9月に登呂博物館梶山氏とともに訪韓、R6.3月には登呂博物館で両国間の国際シンポジウムを開催する予定である。

3. 今後の予定と経費

登呂農耕文化研究所と登呂博物館は静岡大学と静岡市の間の包括協定に基づき協力を継続していくことを確認している。R5 年度末にかけては国際シンポジウム、登呂博物館での実験考古学に関する企画展が計画されており注力していきたい。

◆令和 4 年度外部資金等

R4 年度 基盤研究 (B) 日本列島農耕開始・定着期における農耕文化複合の比較考古学的研究 (代表: 篠原和大) 代表配分額: 1,050,000 円

(学内)

R4 年度 SDGs に関する共同研究助成「登呂遺跡を舞台とした持続的農耕文化の復元とその活用の研究」(交付額: 434,500 円)

◆今後の財原確保予定

R5 年度 基盤研究 (B) 日本列島農耕開始・定着期における農耕文化複合の比較考古学的研究 (代表: 篠原和大) 代表配分額: 300,000 円 (繰越し 700,000 円)

R5 年度 基盤研究 (B) 弥生時代の水田稲作技術と生産性推定のための実験考古学的研究 (分担、代表: 山田昌久) 分担額 600,000 円

R5 年度 国際共同研究加速基金 (海外連携研究) を申請したが不採択、R6 年度も申請済み。

(学内)

R5 学長裁量経費 地域の文化遺産の保護・活用と大学との連携を核とした韓国との交流事業 (交付額: 1,725,000 円)

R5 人文社会科学部長裁量経費 地域の文化遺産の保護・活用と大学との連携を核とした韓国との交流事業 (交付額: 500,000 円)

R5 年度 SDGs に関する共同研究助成「登呂遺跡を舞台とした持続的農耕文化の復元とその活用の研究」(交付額: 400,000 円)

◆学会発表等は以下のとおり

○稲垣栄洋、稲子莉奈、西川浩二、篠原和大、梶山倫裕「弥生時代後期水田遺構「登呂遺跡」の実験復元水田における耕起の有無が雑草植生に及ぼす影響」日本雑草学会第 62 回大会 (3 月 26 日・龍谷大学)

○篠原和大 (李基星訳) 「**일본 아미사키 조식경- 동양본의 파급과 정착 -**」**동아시아의 도약 농경문화 승귀유적 부여 승귀유적 학술총서 2**、2023 年 2 月

○梶山倫裕「登呂遺跡の復元水田の概要と近世以降の深耕鋤について」弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム (12 月 17 日・横浜市歴史博物館)

○篠原和大「富士火山と弥生時代遺跡の形成 - 駿河湾岸弥生時代前半期の低地形成と農耕集落 -」富士学会 2022 年秋季学術大会 (11 月 27 日・オンライン)

○静岡大学考古学研究室 (展示) 第 49 回考古展「弥生農耕の実態にせまる - 登呂遺跡復元水田での耕起実験の成果から -」(11 月 4 日・5 日・静岡大学)